

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272000332		
法人名	有限会社 大三		
事業所名	グループホーム よもぎた		
所在地	030-1212 青森県東津軽郡蓬田村大字阿弥陀川汐干116-1		
自己評価作成日	令和2年11月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和3年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>私たちは利用者が家族と共に暮らしているような環境をつくり「つかずはなれず差し伸べる手で信頼をわかちあう」をモットーとし地域に溶けこめるような共同生活を維持しますを基本理念とし管理者、職員は熟知している。利用者本位を念頭におき、出来る限り利用者家族の思いに沿えるよう支援している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>自然豊かな長閑な環境の中に系列の有料老人ホームと隣接され事業所がある。共有スペースであるホールの窓は大きく、採光は十分にあり、眺望も良く、居心地のよい空間となっている。利用者や職員が共同で作った作品を展示したり、桜の枝が生けてあったり、季節感を味わえる様に季節ごとの装飾も行っている。コロナ禍において、地域との交流や外出などできない状態が続いているが、個別のドライブ外出等、利用者のストレス軽減に配慮した支援が提供されている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を管理者、職員が理解している。玄関・ホール内に掲示いつでも確認できる環境にある。	基本理念は玄関ホール正面に掲示しており、職員が出勤する際に確認できる環境を整えており、日常的に意識付けをすることで、日々のケアに活かせる様にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染防止の為、今年は蓬田村役場主催の村民祭が中止となり、外に出での交流は自粛している。次回の開催をとでも楽しみにしている。	コロナ禍のため、地域との交流は今年度はできていないが、例年は、地域の小学生の職場体験受け入れや、村役場の主催の祭りに手作り作品の出展、訪問の受け入れなど積極的な交流を行っている。作品作りは続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、小学校低学年の慰問があり、高齢者とのふれあい、福祉・介護について理解をふかめていたが今年はコロナウイルス感染防止の為中止となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年はコロナウイルス感染の拡大防止の為、運営会議の開催は中止としています。出席予定者に文章で報告、意見照会を行った後「報告書」を蓬田村役場へ提出している。	コロナ禍のため、運営推進会議は開催できていないが、2ヶ月に1回、会議のメンバーには報告書を提出している。メンバーは役場職員、地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、利用者代表となっており、事業所の活動報告や避難訓練の際の助言等頂き、サービスの質の向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場に設置されている、情報ボックス、FAX、訪問などで役場からの情報や便りがスムーズに行われている。疑問点や問題点を担当職員へ確認し協力関係を維持している。	日常的に担当者との連絡調整は密に行っている。役場には情報ボックスが設置されており、担当者が不在の時にでも情報交換ができるような仕組みなど整えられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の指針を整備している。身体拘束のないケアを実現している。日中、玄関の施錠はしていない。	身体拘束の指針を整備し、職員の研修は法人内や役場主催の研修、外部研修への参加などで、身体拘束をしないケアの知識を得て実践している。研修に参加できなかった職員には資料や復命書の回覧で知識の共有が図られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルがあり、いつでも見れる場所に設置している。虐待は絶対に行わないという意識をを管理者、職員全員が持っている。社内研修も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度マニュアルがあり、いつでも見れる場所に設置し、管理者、職員は理解している。利用者がひとりの人間として権利が守られているか見守っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者は、契約時には重要事項説明書、運営規程を用いて丁寧に説明し納得して頂いたうえでサイン、押印して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関前に意見箱を設置し直接言いにくいことでも意見をだしやすいようにしている。日々の生活の中で、利用者の思いを聞き取り職員間で共有している。	意見箱には、投函されることはないが、日常会話の中で利用者からは意見や要望を聞くようにしている。家族は面会時など利用しているが、今年度は面会制限をしているため、意見はいただけない。意見をいただいた場合は、申し送りなどを通して、共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	玄関前に設置している意見箱は、職員からの意見、苦情も受け入れることになっている。管理者は、職員一人ひとりの意見や希望を聞き取り、皆で話し合い業務改善につなげている。	管理者は、職員個々の相談、意見や提案を聞く機会を設け、職員から出た意見や提案は迅速に対応する様に職場環境を整えており、業務内容の改善等に職員の声が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則は全職員がいつでも見れる場所に保管している。有給休暇は可能な限り希望に応じ年5回以上の有給休暇はとれて居る		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量を管理者は把握している。新人職員の対応として、一緒に取り組む先輩職員が責任を持って指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年はコロナ感染拡大予防の為、各会議や外部の研修は自粛している。コロナウイルスの取扱い等、蓬田村役場の回覧や情報は、都度周知し日々のケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、職員は常に「利用者本位」を念頭においている。利用開始時は、本人の困っていること、不安なこと要望など聞き取りをしている。日々の生活の中で、安心、安全に暮らせているか観察している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時には、家族が困っていること不安に思っていること要望など聞き取り、より良い関係づくりに努めている。家族面会時には、最近の様子を話している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時には、家族の思いを聞き共感しできる限り家族の思いが実現できるように心がけている。一番の問題点を見極め、職員間で話し合い、安全に穏やかに暮らせるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩という思いをいつも思っている。会話を多く持ち、昔の話、子供の話、孫の話など興味のある話題を提供し、明るい雰囲気作りを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルス拡大防止の為、面会自粛、外出、外泊をお断りしている。利用者には、コロナウイルス感染の意味と、家族はいつも考えているという事を伝え、家族との絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス終息を願い、以前のように外出したり、毎月楽しみにしていたおやつ作りの開催を願っている。	コロナ禍においては関係性の継続はできていないが、落ち着いたら以前の様に外出やドライブ、馴染みの美容室への訪問など再開する予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や利用者同士の関係性を、管理者、職員は把握している。会話は、職員が間に入ることで穏やかになるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も丁寧に対応している。必要に応じて本人、家族の経過をフォローし相談に応じている。今まで生活してきた写真を思いだに差し上げている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者本位を念頭に置いている。利用者との会話や行動から、何を望んでいるのかくみ取り出来る限り希望に沿うように対応している。	日々の会話や支援をしている中から意向の把握に努めている。意向のくみ取りが困難な利用者は、家族からの協力を得たり、生活歴からヒントを探ったりし意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人のケース記録をいつでも何度でも職員は見るようにしている。生活歴や、馴染みの暮らし方、生活環境、これまでの利用経過など把握し日々の会話にも取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日9時利用者のバイタル測定を行っている。担当医の指示で一日2検の方も指示にしたがっている。バイタル異常のある方は、落ち着くまで再検をしている。記録、申し送りを通して職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者家族の思いを取り組み、担当者会議等で職員が意見を出し合い介護計画を立案、実施している。	介護計画は介護支援専門員である管理者を中心に職員が意見を出し合い、現状に即した介護計画を作成して、3ヶ月に1回のモニタリングを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、個人記録、日常生活記録を毎日記録でのこし、出勤時には必ず目を通し把握してから業務開始している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	空室状況により役場、地域包括から依頼された緊急の短期の利用にも対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の床屋が月に1回来苑し希望者は利用している。地元の床屋なので、会話も弾み毎月楽しみにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院に全利用者が利用している。入所時には、緊急対応や便利性から、本人家族に伝えている。必要に応じ担当医の指示のもと、他科受診もしている。希望があれば訪問歯科の受診もできる。	入居時に、家族等の意向を確認して、協力病院に変更しているが、専門科は在宅からの主治医を継続して受診している。受診は職員が対応しており、受診後は家族等へ報告を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携している医療機関(青森新都市病院)による、月1回の訪問診療を受けている。特変があった場合は電話連絡で情報伝達し対応方法の指示を受けている。状況により、病院受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関と必要に応じて電話連絡をし情報の収集をしている。洗濯物の回収、必要物品の受け渡しは職員が行っている。入退院の説明には、管理者も同席している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合における対応に係る指針及び看取りに関する指針が明確化されている。医師、利用者、家族の意向を確認しその後も必要時話し合い再確認している。できる限りの対応に努めている。	重度化した場合の意向確認は入居時や状態が変化した時に確認をしている。看取り意向があった場合は、関係機関とも検討を行い、対応できる範囲まで、居室で過ごしていただき、対応が困難になった場合は入院対応としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡、対応方法は、ホーム独自の対応マニュアルがあり。管理者、職員は熟知徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施。整備点検も定期的に行われている。災害に備え防災用品も準備している。	年2回の避難訓練を実施しており、訓練の際は同じ法人の隣の事業所の協力を得ながら実施している。地域の災害時の指定避難所にもなっていることから防災用品の備蓄もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	管理者職員は利用者への尊厳をもち丁寧に温かみのある言葉づかいで対応している。自尊心を傷つけないよう気配りをしている。失敗しても利用者がやろうという気持ちを尊重し持続できる様励まし支援している。	支援時の基本は「優しい声がけ」として、会議等を通して常に意識できるようにしている。職員が利用者に気になる言葉かけをしたときは、その場で注意を促している。人権擁護に関する研修も実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定できるような言葉かけを行っている。答えに迷っている時は、選択肢をもうけ自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	管理者職員は、一人ひとりの趣味や生活ペースを把握理解している。楽しみを持ち、居心地よく生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	こだわりや好みを尊重している。清潔に心がけ季節に合った着替えができるよう、アドバイス手直しもしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ対策で、自室で食事を摂取しているが、一日3回、食事前には、Iあいうべ体操を個々に実施している。下膳できる方は、自力で運んで頂いている。	コロナ禍になってからは、部屋食にしているが、食事中は、職員が巡回して、安全の確保と声がけをしながら寂しい思いをしないように配慮している。今後は、感染予防に対応しながら、食堂での食事再開も考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量水分量は記録をとりチェックしている。水分量は最低でも1日1000ccは摂れるよう支援している。献立は業務委託で栄養士によるバランスのとれたメニューとなっている。利用者に合わせ刻み食トロミ食も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後は口腔ケアするよう声掛けしている。義歯使用者は夕食後義歯洗浄剤による洗浄を行い起床時に装着している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表に記録、排泄パターンの把握をしている。残存機能を大事にし本人の意欲があれば失禁が多い利用者でもトイレ使用継続の支援を行っている。	排泄チェック表を活用して、利用者の排泄のパターン、習慣を把握している。現在、失禁を繰り返しているが、本人の意向を尊重して、トイレでの排泄の支援を試行錯誤しながら取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により、排便の状況を把握している。便秘がちな利用者については、多めの水分摂取を促し腹部マッサージ、下剤の調整等行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回、4日間(月曜日・火曜日・木曜日・金曜日)入浴日としタイミングに合わせて実施している。毎日の清拭、定期以外にも必要に応じ入浴支援ができています。	基本は週2回だが、臨機応変な対応をして、利用者の状態にあった入浴の支援を心がけている。入浴介助は専属の職員が実施していることもあり、利用者もなじみの職員ということで安心して入浴できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその時の状況に応じ居室やソファ等で休息をとれる環境をつくっている。不眠の続く利用者に対しては、担当医に報告、指示に従っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を用い、薬の準備から服薬までに何度もチェックがはまり、誤薬防止に努めている。残薬確認表を用い薬を切らすことがないようにしている。薬の担当を決め責任を持って支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や楽しみごとを把握している。また、趣味を続けることで楽しみをもてるよう物品の準備、完成品を褒めるなど意欲の継続ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族希望し利用者の同意でいつでも外出外泊ができるのだが、今年はコロナウイルス防止の為制限している。家族、利用者にも都度説明し理解して頂いている。	コロナ禍で外出はできていない。外出支援は基本的には個々での対応としてため、自宅を見に行くなど、本人の意向に沿った外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣は基本的にはグループホームの管理となっているが、本人の希望に沿い家族の了解を得て一部を本人が所持されている方もいる。細かな買い物など本人が支払えるよう援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホールに電話機があり、希望に沿いつつも自由に使用できるようになっている。手紙、年賀状を書く援助をすることで、利用者の交流関係が継続できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	厨房はホールに面しており、職員と一緒に過ごしている感、フローア全体に調理のにおいが漂っていて生活感がでている。必要に応じ遮光したり、室温や湿度の調整、換気を行い快適に過ごして頂いている。	ホールの窓は大きく、採光は十分にあり、眺望も良く、居心地のよい空間となっている。自分たちで作った作品を展示したり、調査時は、職員が持ってきた桜の枝を生けてあったり、季節感を味わえる様に季節ごとの装飾も行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	希望で自室にテレビを設置している利用者もいる。本人の落ち着いた場所でテレビを観たり、趣味活動を行っている。その時に応じ座る場所を誘導したり、ソファで休んで頂く等落ち着いた過ごされるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルや椅子家具の配置に気を配り、転倒防止に努めている。家族の写真や賞状、利用者の作品など自宅の部屋のように過ごしやすい居場所になる様工夫している。	自宅で使っていたものや、家族の写真、位牌などを居室に置き、本人が居心地よく、また、配置の工夫をして、安心して過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を把握し、トイレと自室の場所を間違えてしまう利用者には張り紙を利用するなど環境整備に気を配りながらできる限り自立した安全な生活ができるよう支援している。		